

教科・領域	国語	学校・学部	特別支援学校（肢体不自由）高等部
単 元 名	文章をつくろう		
単元のねらい	・単語でなく、文として言葉を意識することで、日常会話での意思表示や聞き取りの正確性が向上する。		
I C T 機 器 の 活 用			
使 用 す る 機 器 等	iPad、テレビ、Lightning コネクタ アプリ「DropTalk」「ひらがなたんご」「Keynote」		
ね ら い	「だれが・なにを・どうする」のボタン（写真とイラスト）を見て、自分で選択して画面に触れることで三語文を組み立てる。生徒の意思表出に教師を極力介さないことで、自分で文を構成した実感を持つ。		
実 践 （機器の使い方や工夫）	・「ひらがなたんご」の動詞フラッシュや「Keynote」で作った動詞フラッシュを繰り返し学習した。 ・下図のように、既知の写真やイラスト等で作ったボタン（押すと数秒の間拡大表示され、音声が出る）はどの生徒も明確に選択できた。 「だれが」のシート  「なにを」のシート  「どうする」のシート  ・「だれが」で呼ばれた人は、できあがった三語文の通りに行動し、全員で文の意味を確認した。 ・アプリ内にはボタンに使う素材を作って保存しておけるので、授業内であっても、生徒の理解度や興味関心に合わせて即座に教材を入れ換えることができる。		
	効 果 改 善 点 等	【効果】 ・紙に書いてホワイトボードに提示するよりも、手元で選択したりテレビで見たり、音声が出たりすることで、見やすさやわかりやすさにつながり、学習意欲が上がった。 【改善点】 ・生徒自身で操作する工夫が足りなかった。その後、生徒の手を固定して画面に触れやすくしたり、キーガードを製作したりした。 ・ケーブルを使用すると iPad が生徒まで十分に届かない他、教師の移動を大幅に制限していたため、Apple TV のミラーリングでケーブルレスにした。ケーブルがないことで、教師、生徒相互にとって快適な環境となった。	